

風の階段 踏みしめて ～ 自己実現へ向かう道 ～



第16号 平成24年8月22日(水) 発行

「幸せ、満ちあふれる 湯の中につかる」 ～ 住宅願信の自由律 ～

自由律 (俳句) には、人間味あふれる豊かな情感がある。代表的な自由律俳句を比較する。

種田山頭火	尾崎放哉	住宅願信
1882～1940 山口県出身 うしろすがたの しぐれていくか ※しぐれ(時雨)=冬の季語	1885～1926 鳥取県出身 咳をしても一人 春の山のうしろから 烟(けむり)が出だした (辞世の句)	1961～1987 岡山県出身 幸せ、 満ちあふれる 湯の中につかる
音はしぐれか どうしようもない私が 歩いている 分け入っても 分け入っても 青い山	足の裏 洗えば 白くなる いれものがない 両手でうける	すぶぬれて 犬ころ 泣くだけ 泣いてしまった顔 氷枕に支えられている 白い天井
鴉(からす)啼(な)いて わたしも一人 すべても ころんでも 山がひっそり まつすぐな道でさみしい	一人の道が暮れてきた こんなよい月を 一人で見て寝る	水滴の 一つ一つが 笑っている顔だ 若さとは こんなに淋しい 春なのか

孤独感とはすべての人に共通するものだ。一人であたはずむとき、勉強するとき、この孤独な時間には貴重だ。先人の俳句のように、病苦と闘いながら、芸術性を増すといった観点はすべての人にすすめられるものではない。むしろ、現実の中で、現実を直視し、対処し、よいよい生き方・在り方を考えることには、人生はほかならないと思う。

孤独な時、ふと、上のような俳句を思い出し、ふと懐かしくなるときがあつてよい。
現実と向き合うとき、勉強に向かうとき、さやかな励みになつてくれれば幸甚である。
あなたの好きな俳句はあったらどうか。

制するべき夏は終わリつつある... : その成果の可否はいかなるものか...

【チェックリスト】

- 毎日、10時間以上学習した。 内発的・主体的な学習を貫徹できた。(学習力の育成・定着)
- 基礎・基本の事項を整理・定着させた。 苦手分野を克服できた。 得意分野を伸張できた。